

研究区分	教員特別研究推 教育推進
------	--------------

研究テーマ	高齢者施設におけるスタンディングリフト導入の可能性に関する研究				
研究組織	代表者	所属・職名	短期大学部・助教	氏名	大石 桂子
	研究分担者	所属・職名	短期大学部・准教授	氏名	木林 身江子
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	短期大学部・助教	氏名	大石 桂子

講演題目	高齢者施設におけるスタンディングリフト導入の可能性に関する研究
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【研究の目的】 厚生労働省による「職場における腰痛予防対策指針」では、福祉用具を積極的に使用すること、移乗介助等の対象者にはリフト等を積極的に使用し、原則として人力による人の抱上げは行わないこと、立位保持できる場合にはスタンディングマシーン等の使用を検討すること等が明記されている。しかし現状では、介護施設で移動用リフトは定着していない。その要因として「吊り具の装着に手間・時間がかかる」「適用利用者の選定基準・判断が難しい」等が先行研究で明らかとなっている。本研究では、高齢者施設におけるスタンディングリフト適用利用者の有無、実際に実施されている移動・移乗介助方法、スタンディングリフト導入や活用に向けた介護職員の意識について調査し、高齢者施設におけるスタンディングリフト導入の可能性を探ることを目的とし、対象は静岡県内の介護老人福祉施設5施設に勤務する介護主任を対象に質問紙調査を実施した。なお、本研究で対象とするスタンディングリフトの種類は、『手動型スタンディングリフト（立位維持型）』である。</p> <p>【結果】 5施設におけるスタンディングリフトの保有台数は全施設で0台であった。スタンディングリフト適用利用者は全利用者の3割程で、使用のための詳細な条件を加えると実際に使用可能な利用者は全体の1.5割弱であった。また、便座への移乗方法では抱上げによる介助が7.0%、入浴チェア等への移乗方法において抱上げによる介助は26.3%の割合で実施されていた。さらに部分的な介助で立ち上がりが可能でも膝関節などに荷重による痛みがあることや足底でしっかり体重を支えられないという理由でスタンディングリフトの適用から外れる利用者も多くみられた。スタンディングリフト導入・活用に関する課題について介護職員は、適用利用者が限定されることや対象者の少なさ、機種を選定の難しさ、コストやハード面等、様々な点で課題を感じていた。</p> <p>【考察】 介護老人福祉施設において移動用リフトの導入状況は低かった。スタンディングリフト適用条件に当てはまる利用者が施設で生活している割合は多くなく、スタンディングリフト使用可能な利用者はさらに減少する。また、スタンディングリフト使用可能な利用者であっても、移動や移乗の介助は車いす、手すりやL字バー、抱え上げが行われているという現状が明らかになった。さらに導入には対象者の少なさに加え、選定方法、コストやハード面などの課題があると介護職員が感じていた。これらから、スタンディングリフトの活用による利用者の機能維持・向上と介護職員の腰痛予防に向けた具体的検討が必要であることが示唆された。</p>